

イベント電車の実施事例

The example of event trains

中尾正俊*・八木秀彰**

By Masatoshi NAKAO*・Hideaki YAGI**

1. はじめに

広島電鉄株式会社は、広島市内を走る市内線（軌道線）19.0kmと、広電西広島から広電宮島口までを結ぶ宮島線（鉄道線）16.1kmとを合わせた計35.1kmを営業している。年間利用者数は、平成18年度は市内線で3921万8000人（107,400人/日）、宮島線で1799万2000人（49,300人/日）であり、利用者数の推移はここ数年下げ止まり感があるものの、依然微減傾向にある。広島市の総人口は2010年をピークに減少に転じる見通しとなっており、2030年頃までは高齢人口が急激に増加し、一方、労働人口・若年人口は激減する。これらを背景に通勤・通学等の利用者数の伸びは期待できないことから、魅力ある電車事業の展開により地域社会とフレンドリーな関係を築き、利用者層の拡大を図ることが重要である。具体的な施策としては、車内で食事をしながら広島観光ができるディナー電車の運行、車庫を開放した路面電車まつり、四季を通じたイベント電車の運行、定期的なレトロ電車の運行等の実施事例を紹介する。

2. イベント電車の実施事例

(1) 観光資源としての路面電車の活用

a)七夕電車の運行（毎年7月7日）

「おりひめ号(707号)」と「ひこぼし号(705号)」が、オリジナルのヘッドマークを付けて市内を走ります。

車内は幼稚園児たちの願い事を書いた短冊などで飾り付けられ、七夕の風情を醸し出します。また、7月7日の七夕当日には、幼稚園児による短冊流しを行います。天の川を渡って、織姫と彦星が年に一度出会うという七夕の物語を演出するため、幼稚園児たちが乗車

したおりひめ号とひこぼし号が、短冊流しを行う元安川近くの原爆ドーム前電停で出会い、その後、園児たちが元安川で短冊流しを行います。七夕電車の運行は広島夏の風物詩として定着し、日頃の利用者への謝恩行事として大変好評を得ている。



写真-1 七夕電車実施事例

b) クリスマス電車の運行

電飾やクリスマスリースで装飾されたハノーバー電車がクリスマスソングを流しながら運行します。

サンタクロースやトナカイに扮した社員たちが電車に乗り込み、広島駅や横川駅、広電西広島駅で子供たちにお菓子のプレゼントをします。クリスマス電車の運行は、広島冬の風物詩として市民に定着し、日頃の利用者への謝恩として大変好評を博しているだけでなく、地元メディア等からの注目度も高いものとなっております。また、クリスマス電車の運行により「ひろしまドリミネーション」（ライトアップ事業）に協力することで、市民や観光客が散策して楽しめる広島の夜の街を演出している。



写真-2 クリスマス電車実施事例

c) 観光インフォメーション電車の運行

超低床車両5101号（グリーンムーバーマックス）を「動く広島観光インフォメーション電車」とし、

*、広島電鉄株式会社常務取締役電車加バニプレゼン
（広島市中区東千田町二丁目9番29号、
TEL082-242-3551、FAX082-242-3559）

**、広島電鉄株式会社
電車加バニ電車輸送企画グループ 営業課
（広島市中区東千田町二丁目9番29号、
TEL082-242-3603、E-mail h-yagi@hirodent.co.jp）

広島市「生きた交通博物館」推進事業に協力している。電車には厳島神社・原爆ドームをはじめとする広電沿線の観光スポット情報を車内外に掲出し、広島・宮島観光のPRを行い、来広観光客等の電車利用の促進を図った。



写真-3 観光インフォメーション電車実施事例

d) 在広プロチームの応援電車の運行

今年で4回目となった「カープ応援企画」の1つとして、2008年プロ野球開幕に合わせて、カープキャラクターやロゴ等をデザインに用いた「カープ電車」の運行を行っている。

また、サンフレッチェ応援企画として、2007年リーグ戦よりキャラクターやスローガンをデザインに用いた「サンフレッチェ電車」の運行を開始した。

広島には野球とサッカーのプロチームがあり、地元企業として、地域全体でプロチームを応援する機運の醸造を図るとともに、一人でも多くの方が、カープおよびサンフレッチェの応援に足を運ばれるきっかけづくりに貢献したいと考えている。



写真-4 カープ電車出発式（ブラウン監督と記念撮影）

e) 広島市とNPOと共同でディナー電車の運行

広島市の観光振興と公共交通活性化を目的に、広島市の生きた交通博物館事業へ参画し、広島市とNPOと共同で、車内で食事を楽しみながら市内観光ができるディナー電車の運行を行っている。



写真-5 ディナー電車実施事例

(2) 沿線地域との連携

a) 路面電車まつりの開催

平成7年10月に行われた「路面電車サミット」において、路面電車の公共性・利便性を広くPRし利用促進と種々のキャンペーン活動をするため、毎年6月10日を「路面電車の日」と制定された。この趣旨に賛同し毎年6月上旬に路面電車まつりを開催している。第7回からは、市民団体と弊社がまつり実行委員会を組織し、弊社が事務局、広島市がオブザーバーとなって路面電車まつりを開催している。



写真-6 路面電車まつり実施事例

b) 電車学校の開設

公共交通機関をもっと身近なものと感じてもらうため、子どもたち（幼稚園児～小学生）を対象に、施設見学や乗車体験を中心とした電車の学校を毎年夏休みに開校している。参加してくれた子どもたちには、イベントを楽しみながら、乗車マナーや、交通安全に関する知識を身につけて頂いている。



写真-7 電車の学校実施事例

3. おわりに

近年、過度の自動車利用によるCO₂排出が地球温暖化の要因の一つとなっている。また、自動車依存型社会の形成は、無秩序な都市の拡大を招き、特に地方都市では都心の空洞化に拍車をかけ都市の衰退が問題視されている。超高齢社会を迎え、自動車に依存しなくても快適に暮らすためには、移動の自由の確保が重要である。これからの公共交通機関の役割は、安全、便利で利用し易くかつ乗っていて楽しい空間を提供することである。これらのイベントを通じ、公共交通とふれあう機会が増し、ひいてはこれらの社会問題の解決の一翼を担うことが出来れば幸いである。